３．地域別の歴史的変遷と史跡の現状

（１）西三川砂金山地域

①概要

西三川砂金山跡は、佐渡島南西部に立地する笹川集落（真野地区）を中心とした地域に所在し、中世から江戸時代にかけて大規模な砂金採集が行われていた地域である。

指定地には砂金採取システムを示す水路、堤、砂金採掘跡等の遺構が良好に現存している。また、砂金採掘に携わった鉱夫達の集住によって形成された笹川集落では、鉱業から農業へと生業を変え、集落の形態が現在に至るまで維持されている。

西三川砂金山跡は、これらの遺構と豊富な史料や絵図等から鉱山経営の様子や採掘地の変遷、集落形態を知ることができる重要な遺跡である。

西三川砂金山は古くから砂金採集地として知られており、平安時代末期の「今昔物語集」や「宇治拾遺物語」に、能登国（現石川県）の鉄掘集団の長が佐渡国で金を採る説話の舞台とされている。永享６年(1434)に佐渡に流された世阿弥が著書「金島書」の中で「こがねのしま」という表現を用いており、佐渡が古くから金を産出する島として知られていたことがわかる。

古代から中世にかけての西三川砂金山の状況については、寛政元年(1460)頃から開発が進み、弘治年間(1555～57)に松浪遊仁という人物が砂金採集を行っていたことが江戸時代の記録に書かれている。当時は、田畑や川底などを掘り返した土砂の中から、砂金だけを選り分けて採集するという手法がとられており、中断と再開を繰り返しながら細々と砂金採集が行われていたものと推測される。

天正 17 年(1589)、佐渡を平定した上杉景勝による金銀山経営が始まると、西三川川中流域の山間地には、砂金採取を主目的とした鉱山集落が形成され、1 つの稼ぎ場から毎月砂金 18 枚を上納したことから、「笹川十八村」と呼ばれるようになった。採取された砂金は、伏見城の御金蔵に納められ、豊臣秀吉の「黄金太閤」のイメージ作りの大きな役割を担っていたと考えられる。

江戸時代に入ると、佐渡奉行所から派遣された金山役が笹川十八枚村に役所を構え、徳川幕府の財政を支えた佐渡金銀山の１つとして繁栄した。技術面においても、これまでの川底や田畑を掘り返した土砂から砂金だけを選り分けるという原初的な方法から、砂金を含有する山の斜面を人力で掘り崩し、長距離水路によって引いた水で余分な土石を洗い流した後、残った砂から砂金を取り上げる「大流し」と呼ばれる技術がみられるようになり、砂金量は飛躍的に増大した。現在でも、真野地区の経塚山山頂直下の小川内川上流の関口から受堤まで延べ 12km に及ぶ「金山江」と呼ばれる水路跡の大部分が残っている。こういった技術革新により大量の砂金が産出され、西三川砂金山には多くの大物山師が進出するようになり、それに伴い、田切須や大須といった西三川砂金山周辺の銀山の開発も進んでいった。

安土桃山時代末期から江戸時代初期にかけて最盛期を迎えた西三川砂金山も、江戸時代中期以降は次第に産金量が減少し、明治５年(1872)に閉山となる。

＜虎丸山＞

虎丸山は、西三川砂金山跡の砂金採掘地の１つで、五社屋山・立残山・山居山とともに水路、溜池、稼ぎ場跡、作業小屋の４要素がすべて揃った遺跡である。17 世紀には操業が始まり、明治５年(1872)の閉山まで稼がれた。上下２段の稼所があり、山麓には、砂金採掘によって形成された平坦面と、砂金流し用の水路と想定される溝状の落ち込みが見られる。現在でも採掘に伴い形成された急傾斜の裸地がみられ、西三川砂金山で象徴的な採掘地である。

＜五社屋山＞

五社屋山は、江戸時代の砂金採掘地の１つで、笹川集落の北東約 1km に所在する。砂金採掘によって形成された急斜面や平坦面がみられ、砂金流しの水を溜めた堤跡や、その水を採掘場に運ぶ水路跡のほか、採掘によって出たガラ石（廃石）の山や、そのガラ石を組んで鍛冶小屋や作業小屋に利用したと推定される石組遺構等が遺存する。

＜金山江＞

金山江は、笹川集落中央部の東斜面に位置する砂金採掘地である中柄山と峠坂山と繋がる用水路である。寛保元年(1734)の史料によると、水源の真野経塚関口から峠堤まで 6,655 間(約 11.98km)とあり、西三川最長の用水路であった。これまでの調査で、後世の開発により部分的に失われている箇所もあるものの、山間部の斜面地を中心に、水路跡が 9.0km 以上に渡り良好に現存していることが明らかになっている。水路の一部は後世に農業用水路として転用されている。

＜立残山＞

立残山は、西三川砂金山跡の砂金採掘地の１つで、五社屋山・虎丸山・山居山とともに水路、溜池、稼ぎ場跡、作業小屋の４要素がすべて揃った遺跡である。17 世紀には操業が始まり、明治５年(1872)の閉山まで稼がれた。一部が道路建設に伴い消滅しているが、採掘によって形成された急峻な斜面地が見られる。堤は２つ確認されており、現在でもその痕跡が確認できる。

＜笹川集落＞

かつて西三川砂金山の中心地として栄えた笹川集落の居住地を中心とした地区には、江戸時代に佐渡奉行所から派遣された金山役人の居宅跡（金山役宅跡）や、文禄２年(1593)の創建と伝わり、西三川砂金山の繁栄と安全を祈願して勧請された大山祇神社、18 世紀後半に建てられたと推測され、砂金採掘に従事する笹川集落の民家の特徴を残している金子勘三郎家住宅などがある。

②史跡の現状

西三川砂金山跡は、佐渡島の南西部に位置し、西三川川河口から約４km上流の西三川川と笹川川に挟まれた小佐渡山麓の丘陵地に位置する西三川砂金山と砂金山採掘により形成された笹川集落によって構成される。

指定地は約９割が民有地であり、大部分が個人所有の山林が占める。

平成 19 年から 22 年度に実施した分布調査や平成 23 年度から継続的に実施している発掘調査によって、江戸時代から明治時代初期までの水路跡、堤跡、石組遺構が多数確認され、主要採掘場・水路・堤の開発や変遷時期、当時の砂金採取技術が明らかになっている。

項　目		内　容
指定面積		284,835.150 ㎡
土地所有		公有地（県有地：1,211.98 ㎡、市有地：13,571.87 ㎡） 民有地（284,665.53 ㎡）
土地利用		・笹川集落内の指定地では、現在も地域住民の生活が営まれている。 ・それ以外の史跡範囲の大部分は個人所有の山林で占められている。
地目		田・畑・宅地・山林・原野・境内地・用悪水路・ため池・保安林・公衆用道路・水路敷・道路敷・雑種地
遺構		水路跡・堤跡・石組遺構等の採鉱関連遺構、鉱山集落関連建造物
遺構分布		・笹川集落内には、金山役宅跡、金子勘三郎家住宅、大山祇神社等の鉱山集落関連遺構・建造物が分布する。 ・五社屋山、虎丸山、金山江周辺には、採掘地や水路跡、堤跡、石組遺構等の採鉱関連遺構が広範囲に分布している。
施設分布	史跡整備関連施設	案内板、解説板
	その他	道路・民家等の建築物・工作物、鉄塔・電柱・電線類、農業用水路
維持管理状況		・集落周辺は地元の保存団体への委託により木竹の伐採や間伐、草刈り等の定期的な維持管理を実施している。 ・その他の山林の大半は、基本的に土地所有者による維持管理に委ねられている。
公開活用状況		笹川集落には来訪者のための解説板が統一されたデザインで整備されている。
法規制		文化財保護法（重要文化的景観） 景観法（佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観特別区域、佐渡金銀山特別区域） ※佐渡金銀山特別区は平成 28 年 7 月設定予定 自然公園法（小佐渡県立自然公園区域） 都市計画法（都市計画区域） 森林法（保安林） 道路法（主要地方道・一般県道） 農業振興地域の整備に関する法律（農業振興地域 白紙地域・農地）
調査等の履歴		平成 12～16 年度　大山祇神社能舞台調査（平成 17 年　報告書刊行） 平成 19～22 年度　分布調査（平成 24 年　報告書刊行） 平成 23～26 年度　発掘調査
自然条件	地形・水系	・指定地のうち、虎丸山・五社屋山・立残山・笹川集落は、小佐渡山中の静山・鞍骨山に源を発し、真野湾にそそぐ西三川川（二級河川）や支流の笹川川、角間川の上流部に立地する。金山江は、小川内川上流の経塚関口を水源とし、丘陵地の斜面地に立地する。 ・流域は東から西へと流れる峡谷のため、笹川集落の一部を除き、急峻な斜面地となっている。
	植生	・指定地は二次林、人工林からなる。群落は、ブナクラス域のコナラ群落に含まれるイヌザクラ－コナラ群集が大半を占めるほか、ユキグニミツバツツジ－アカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林からなる（環境省･第6回･第7回自然環境保全基礎調査 植生調査2001）。 ・河川の流域と笹川集落の周辺はほとんど全域がコナラ-アカマツ林かコナラでできている二次林で、集落付近に植林されてできたスギ林がみられる。

〈指定地の現況写真〉

写真 2-1：水路跡（五社屋山）

写真 2-2：石組遺構（五社屋山）

写真 2-3：水路跡（五社屋山：発掘調査時）

写真 2-4：五社屋山堤跡（発掘調査時）

写真 2-5：虎丸山遠景

写真 2-6：立残山遠景

写真 2-7：水路跡（金山江）

写真 2-8：石組水路跡（立残山水路）

写真 2-9：立残山堤跡

写真 2-10：金山役宅跡

写真 2-11：金子勘三郎家　外観

写真 2-12：金子勘三郎家　主屋

写真 2-13：大山祇神社

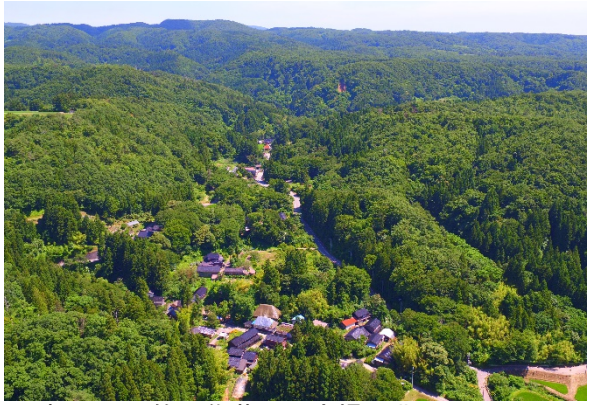


写真 2-14：笹川集落周辺空撮（北から）

写真 2-15：説明板・案内板
（重要文化的景観関連整備で設置）

写真 2-16：案内板（観光協会が設置）

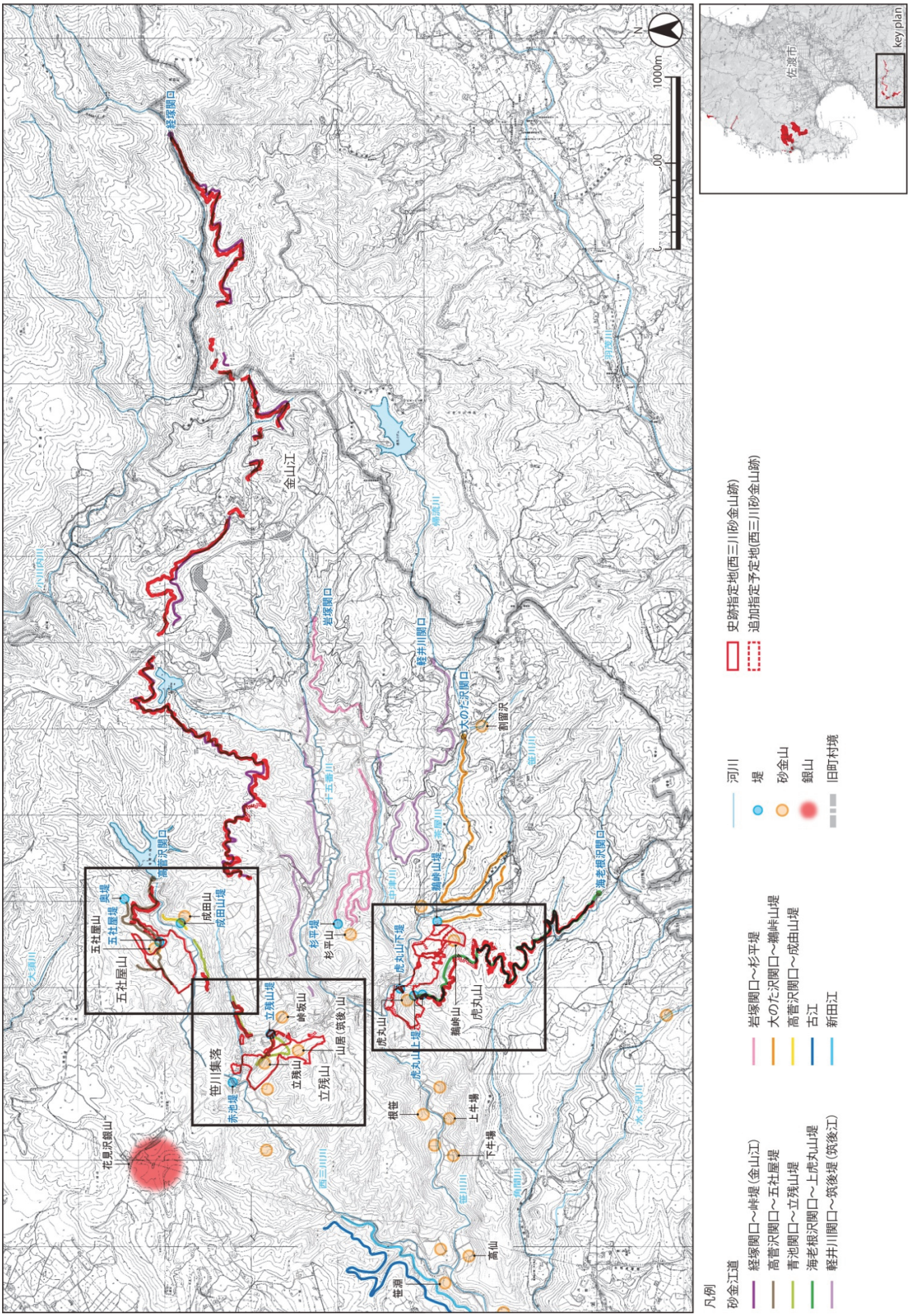
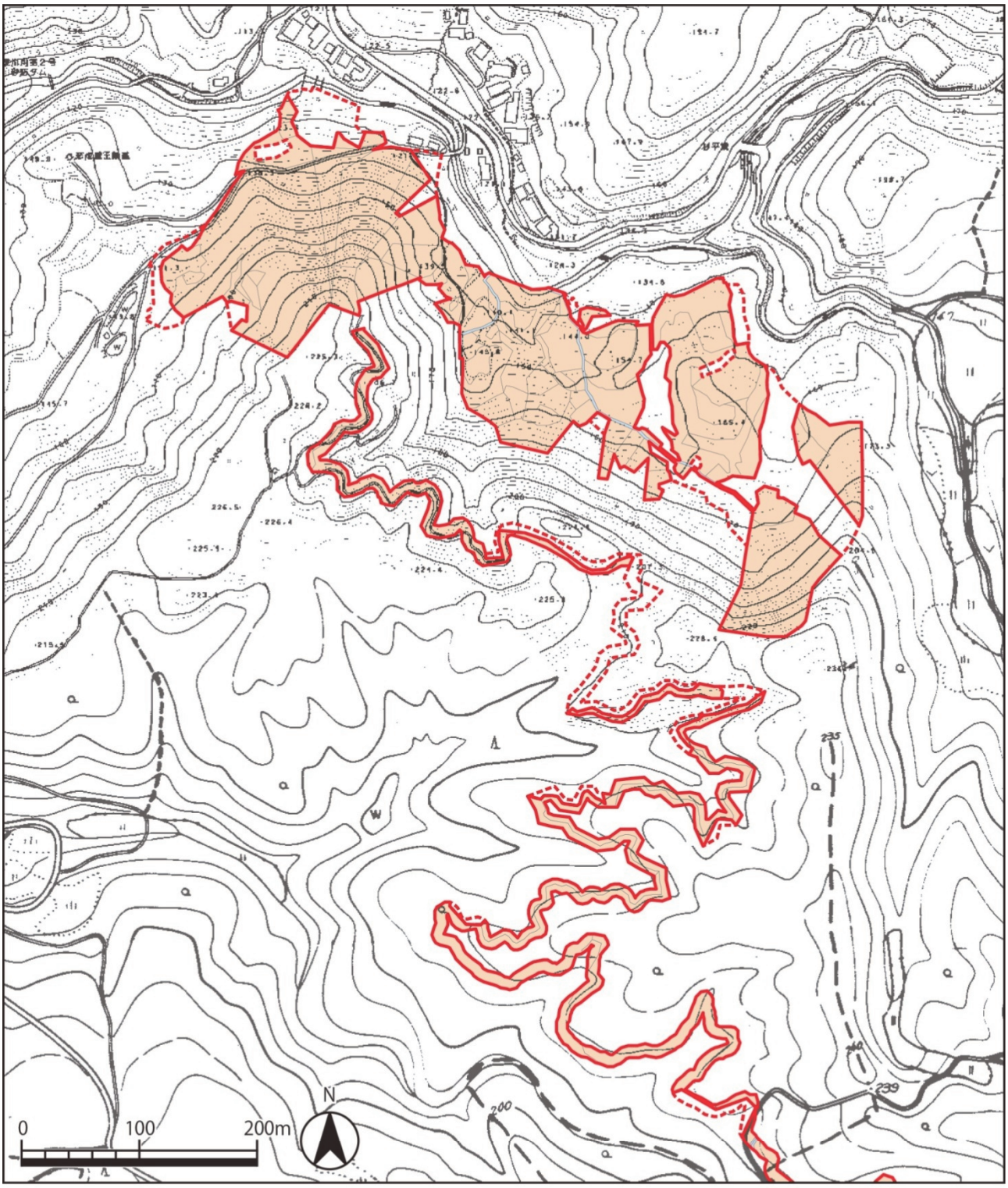


図 2-17：西三川砂金山跡遺構分布図



凡例

公有地

民有地

史跡指定地(西三川砂金山跡)

追加指定予定地(西三川砂金山跡)

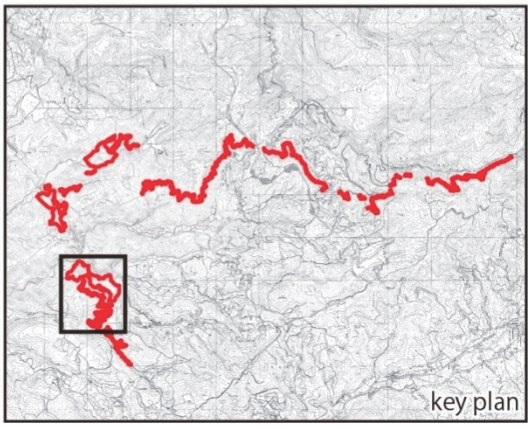
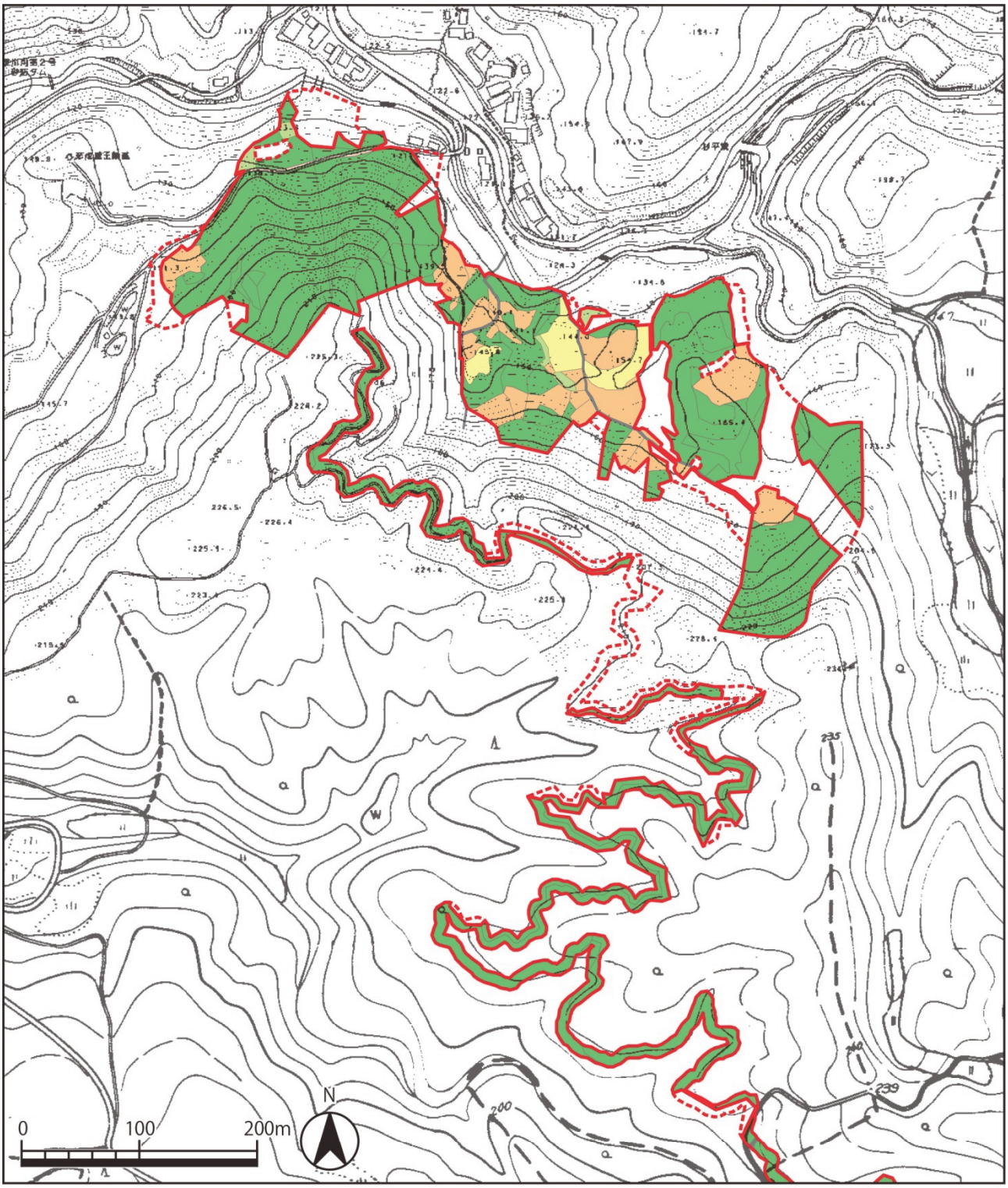


図 2-18：西三川砂金山跡（虎丸山）土地所有図



凡例

- 田
- 畑
- 山林
- 原野
- 道路敷
- 雑種地
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

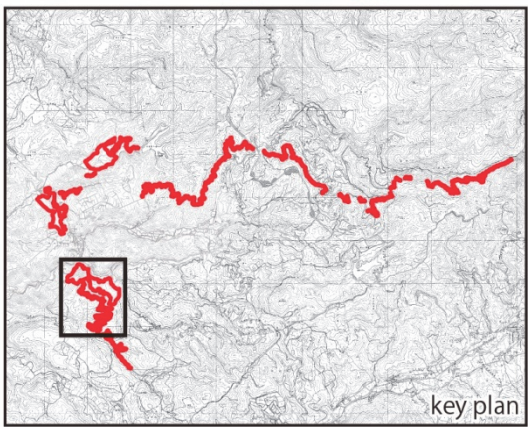
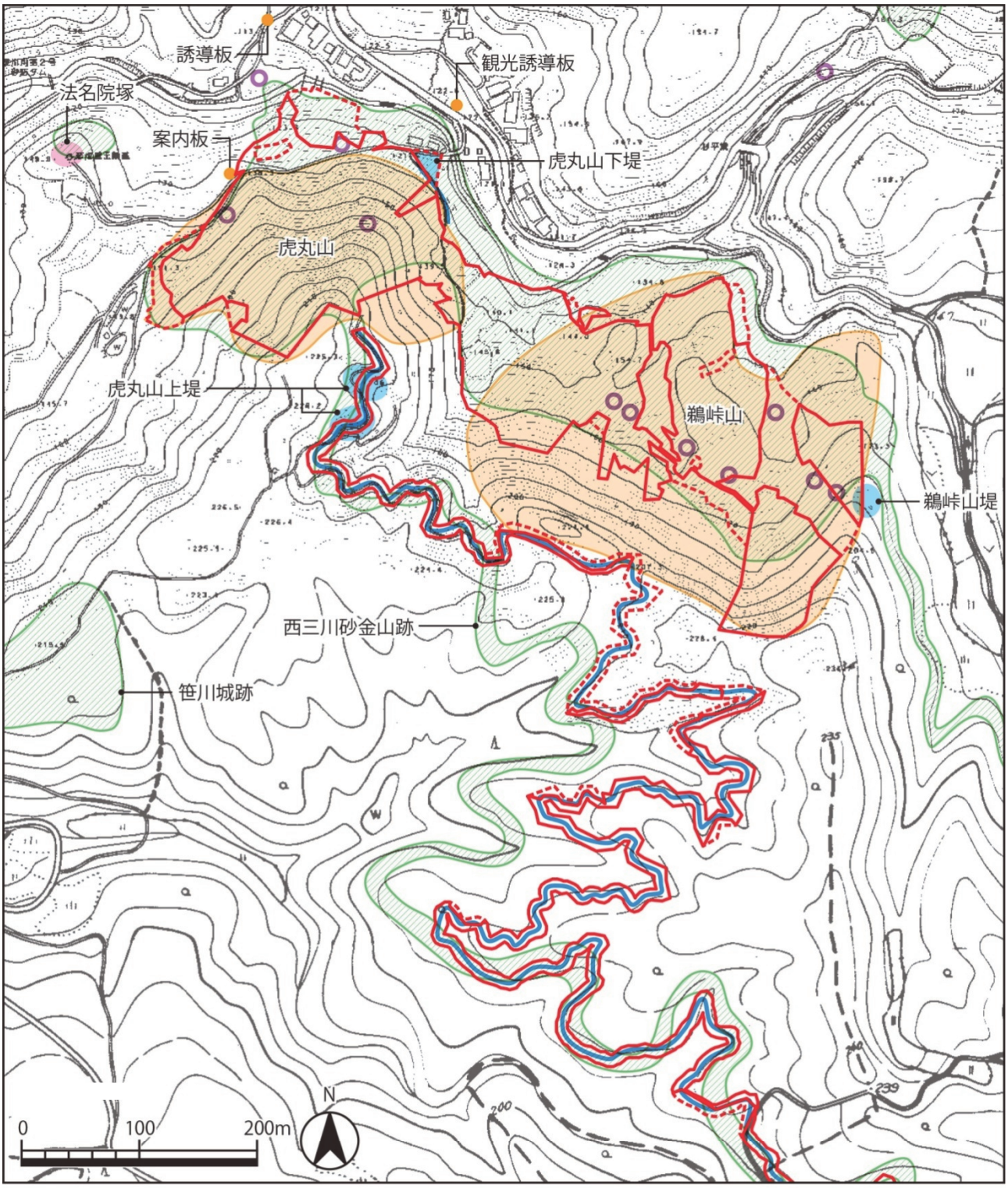


図 2-19：西三川砂金山跡（虎丸山）土地利用図



凡例

- 石組遺構
- 水路
- 堤
- 信仰施設
- 埋蔵文化財包含地
- 砂金採掘地
- 説明板及び道標
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

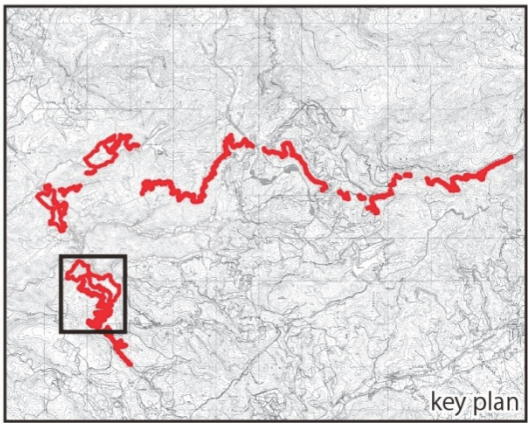
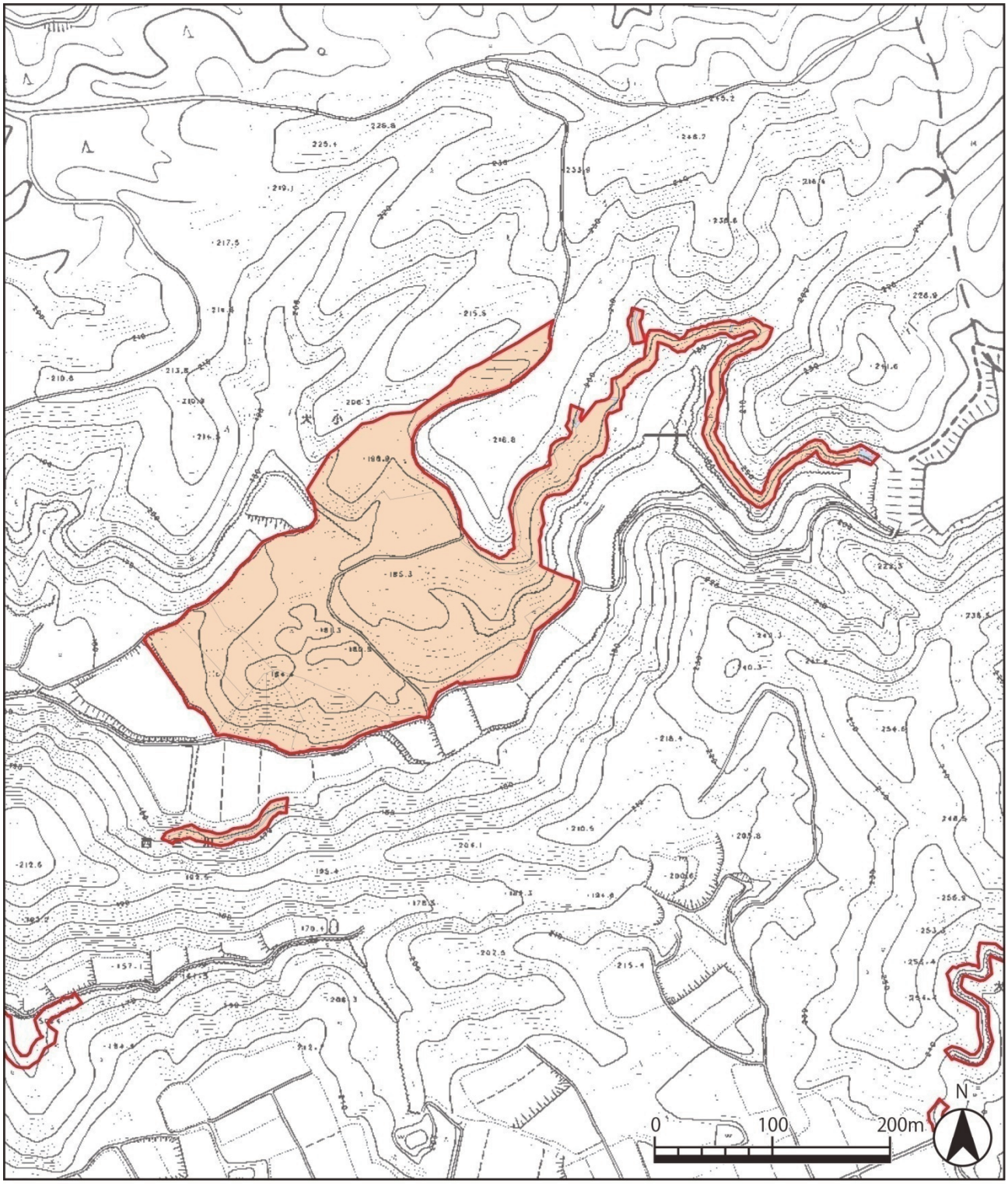


図 2-20：西三川砂金山跡（虎丸山）遺構分布及び施設分布図



凡例

公有地

民有地

史跡指定地(西三川砂金山跡)

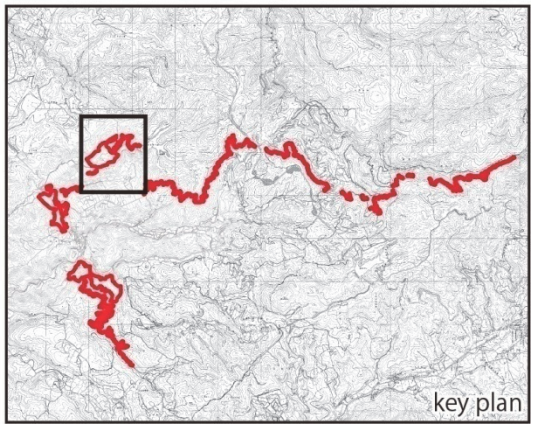
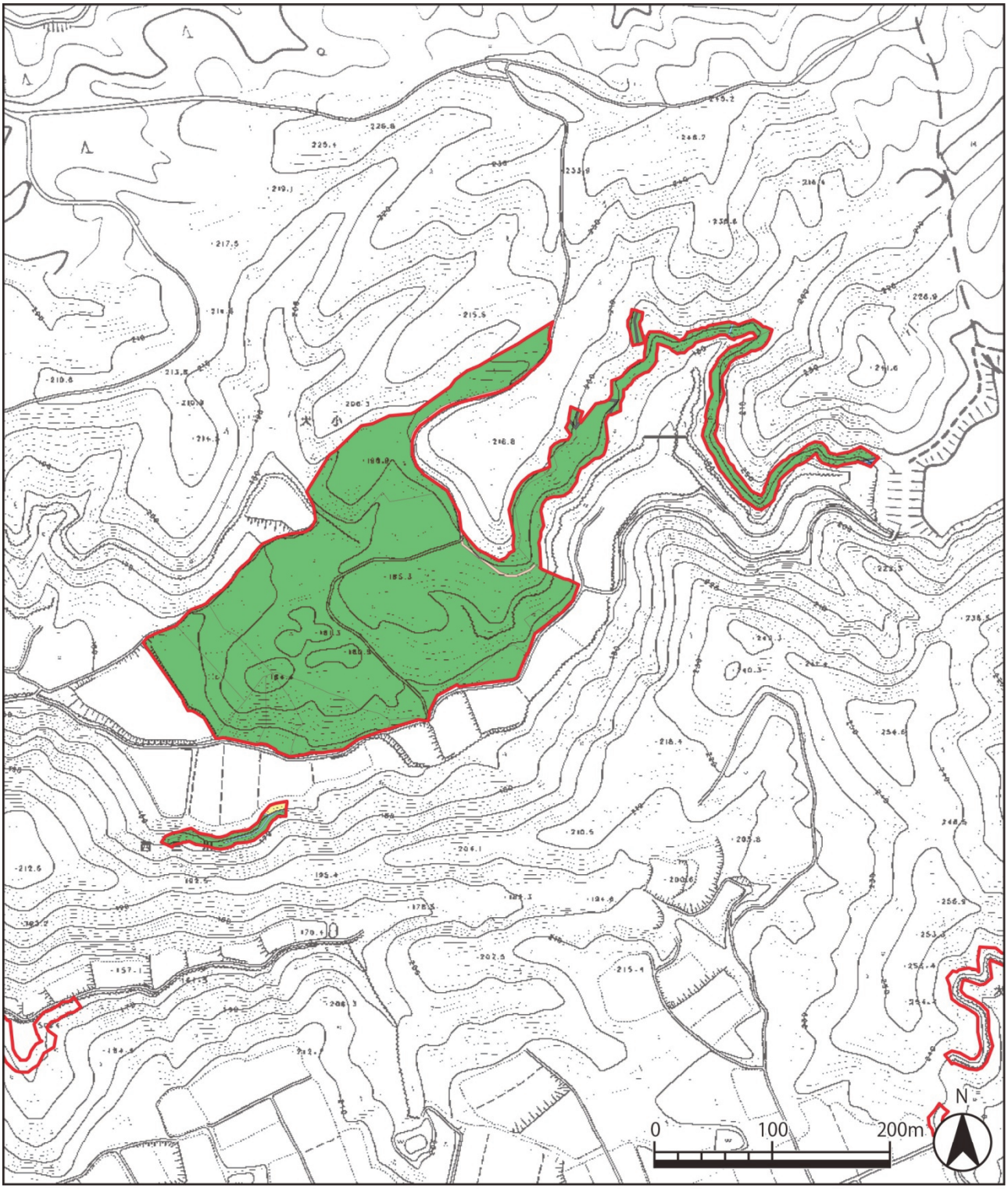


図 2-21：西三川砂金山跡（五社屋山）土地所有図



凡例

- 田
- 山林
- ため池
- 用悪水路
- 水路敷
- 道路敷
- 雑種地
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)

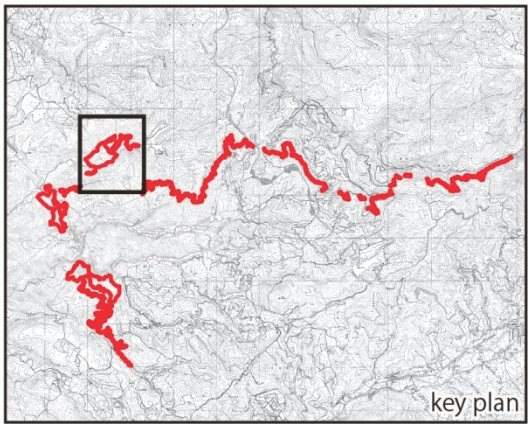
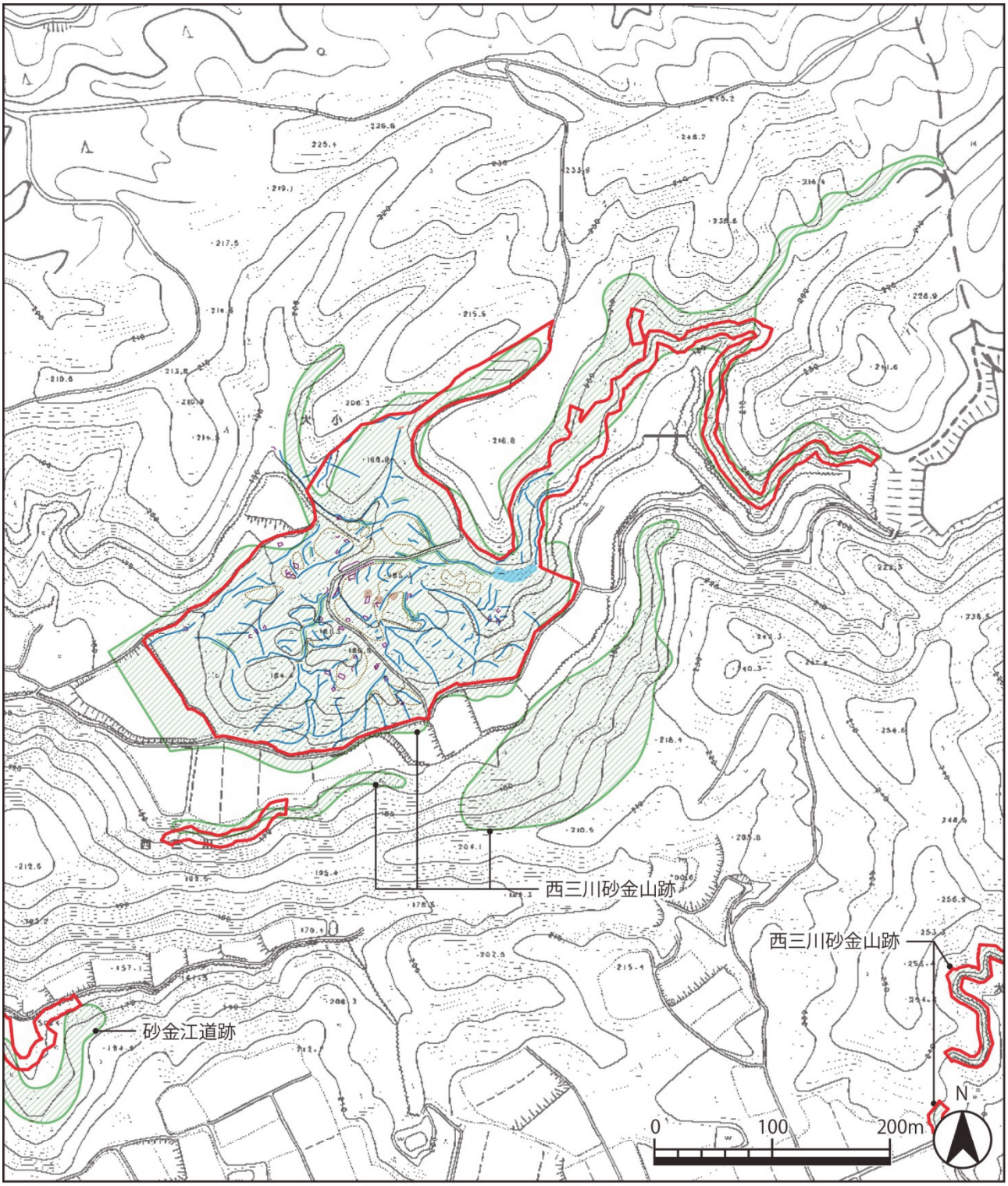


図 2-22：西三川砂金山跡（五社屋山）土地利用図



凡例

- 凹地(採取場?)
- 水路跡(推定)
- 堤跡
- 堰
- 石垣・石積み
- 石組遺構
- ガラ石集積箇所
- 埋蔵文化財包含地
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)

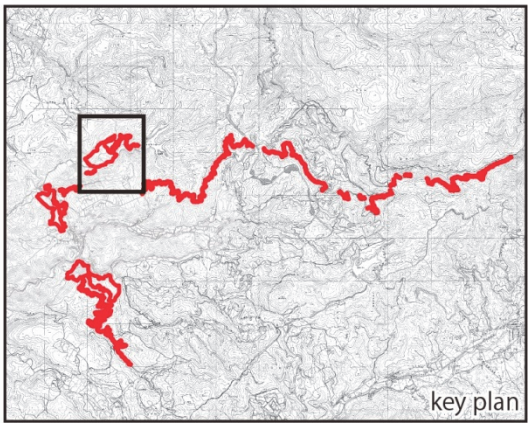


図 2-23：西三川砂金山跡（五社屋山）遺構分布及び施設分布図

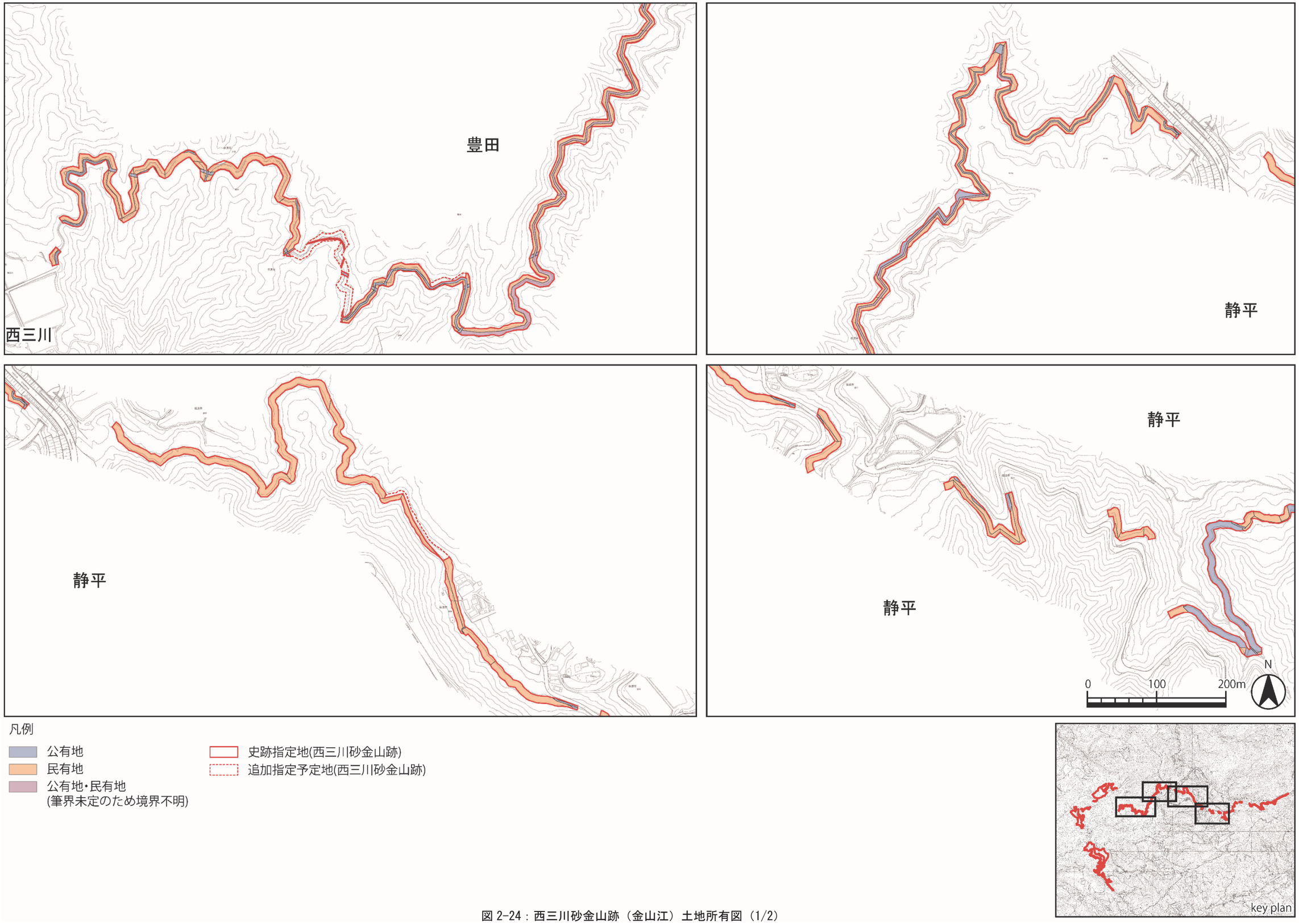
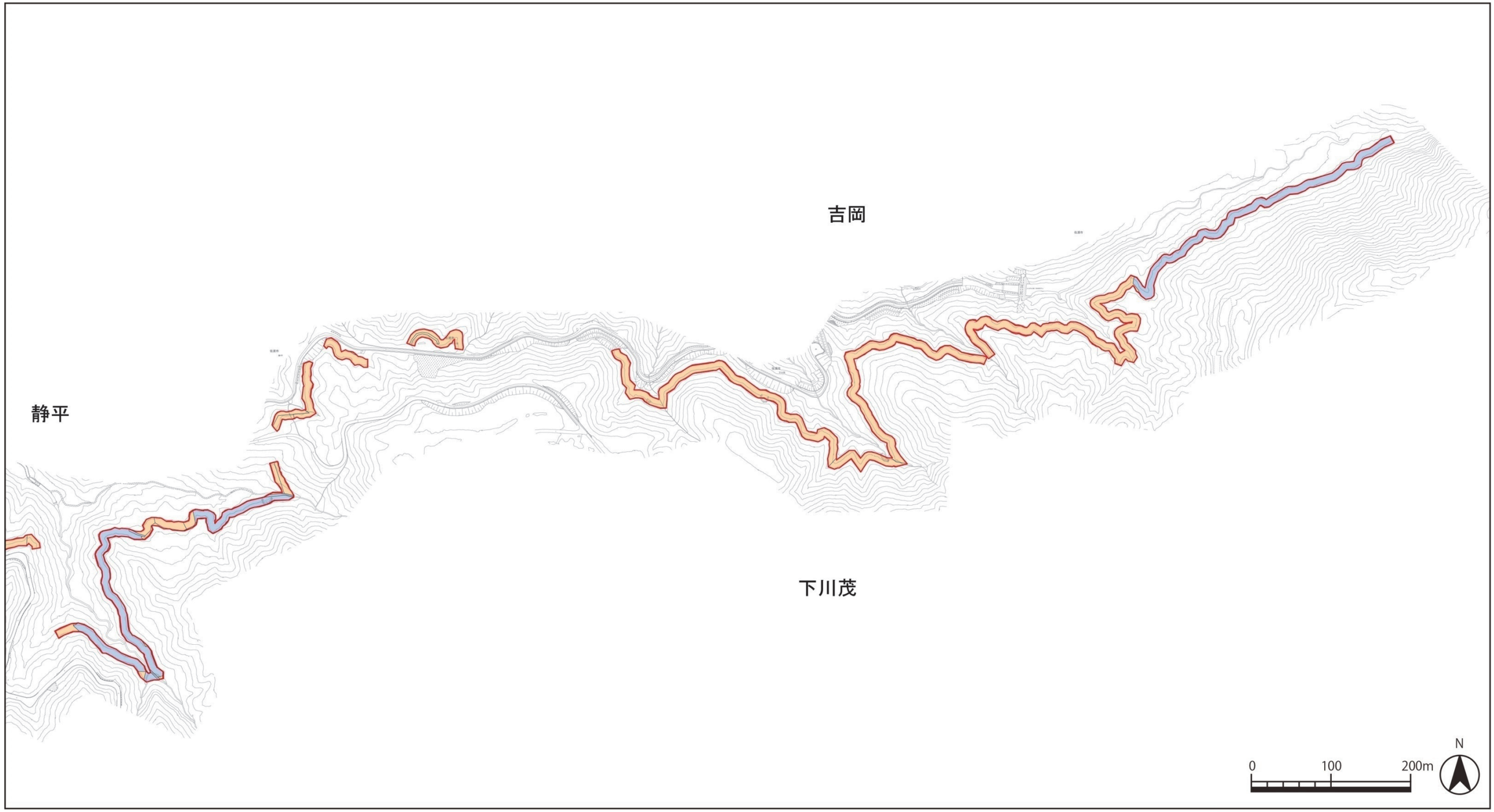


図 2-24：西三川砂金山跡（金山江）土地所有図（1/2）



凡例

公有地

民有地

史跡指定地(西三川砂金山跡)

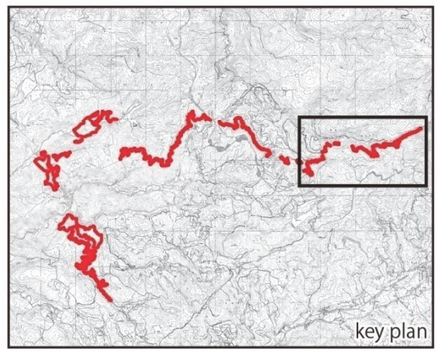
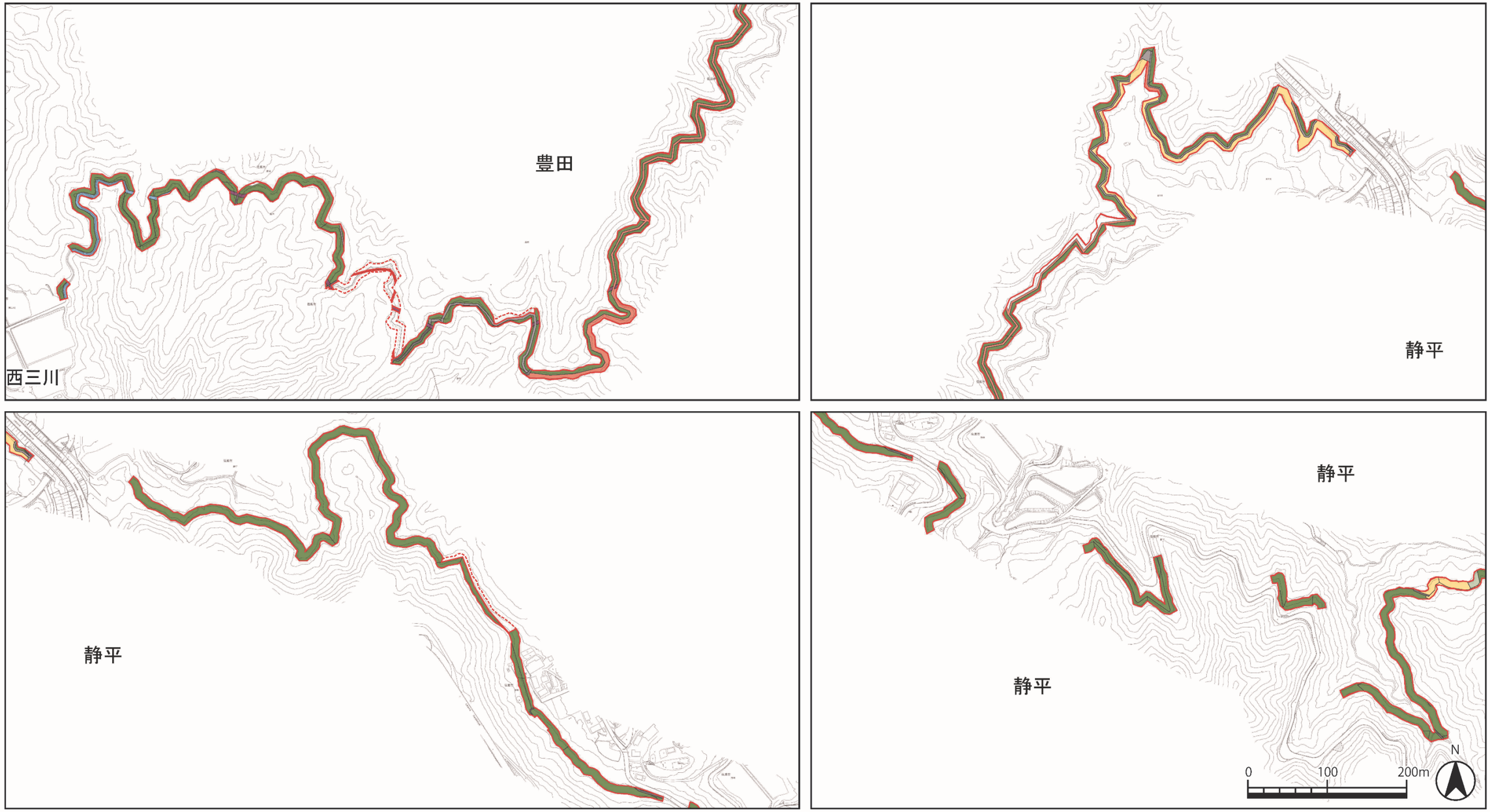


図 2-25：西三川砂金山跡（金山江）土地所有図（2/2）



凡例

- 田
- 山林
- 原野
- 用悪水路
- 水路敷
- 公衆用道路
- 道路敷
- 田・山林・水路敷・ため池・公衆用道路（筆界未定のため境界不明）
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

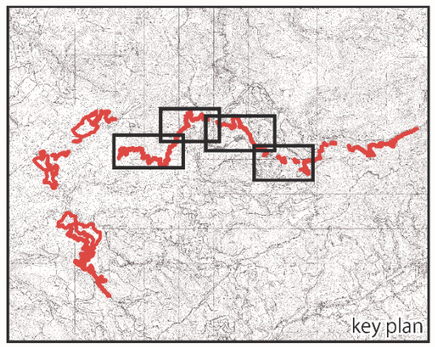
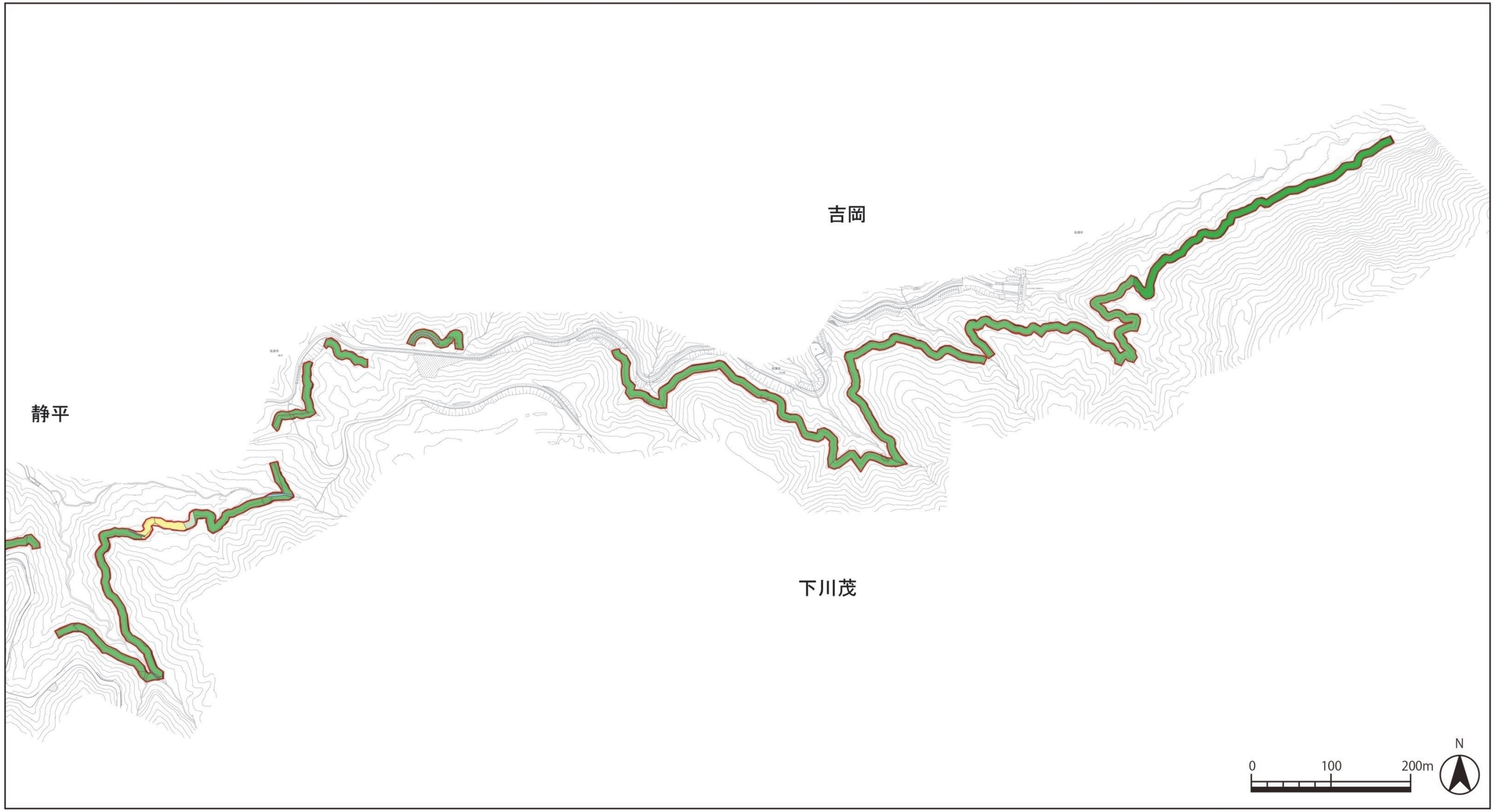


図 2-26：西三川砂金山跡（金山江）土地利用図（1/2）



凡例

- 田
- 山林
- 原野
- 水路敷
- 保安林
- 公衆用道路
- 道路敷
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)

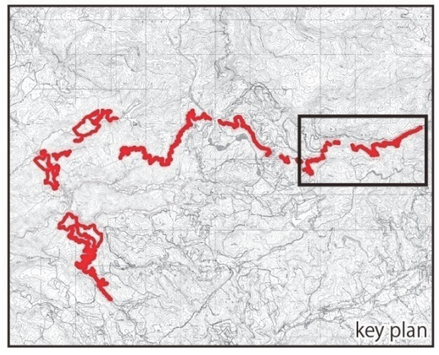
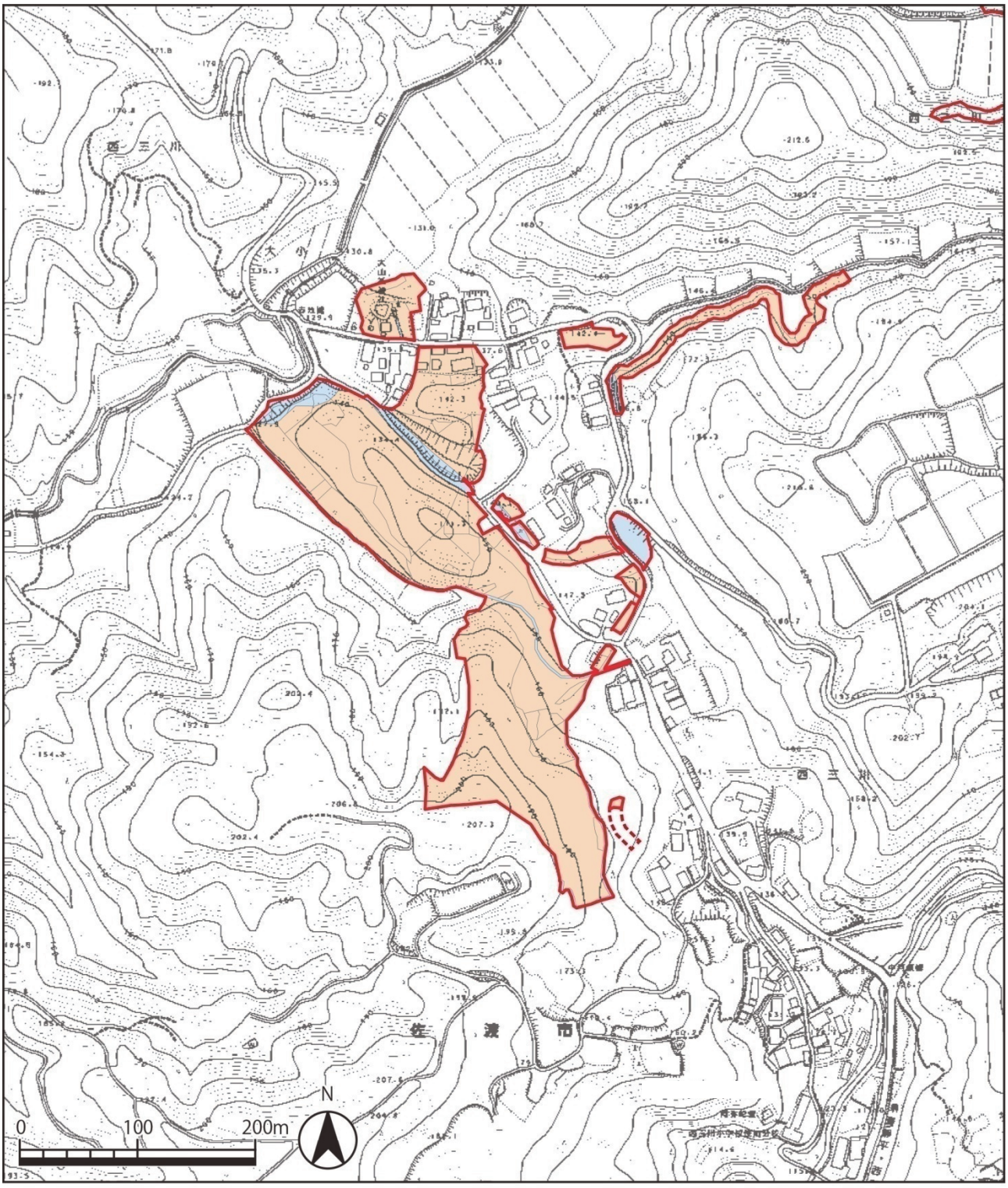


図 2-27：西三川砂金山跡（金山江）土地利用図（2/2）



凡例

公有地

民有地

史跡指定地(西三川砂金山跡)

追加指定予定地(西三川砂金山跡)

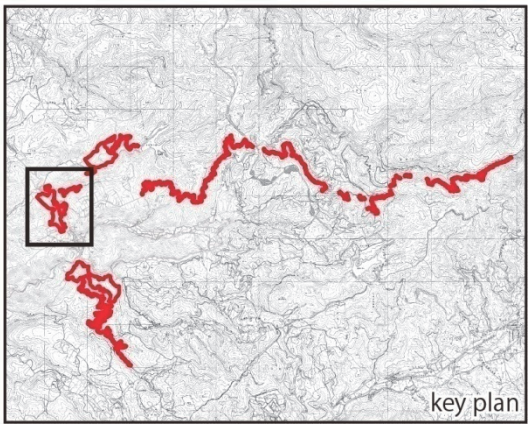
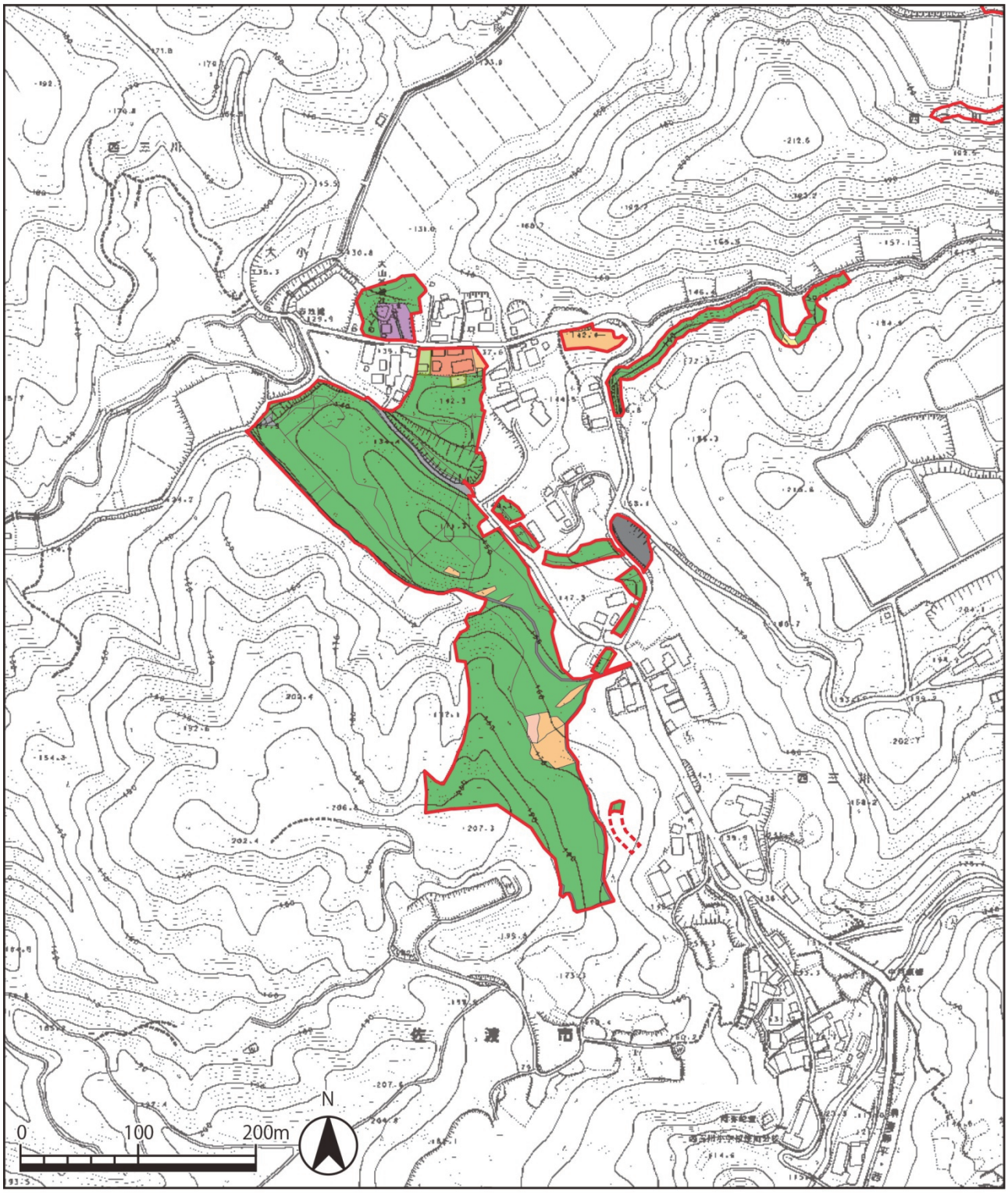


図 2-28：西三川砂金山跡（笹川集落・立残山）土地所有図



凡例

- 田
- 畑
- 宅地
- 山林
- 原野
- 境内地
- 道路敷
- 雑種地
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

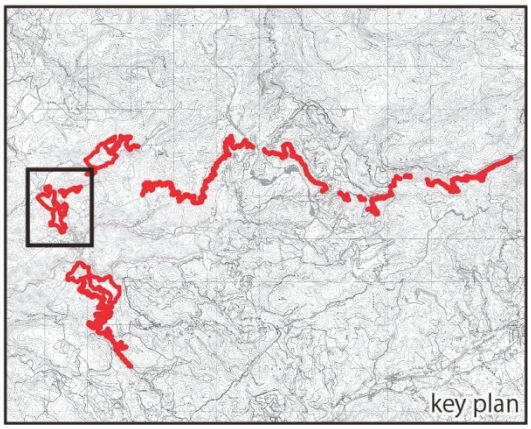
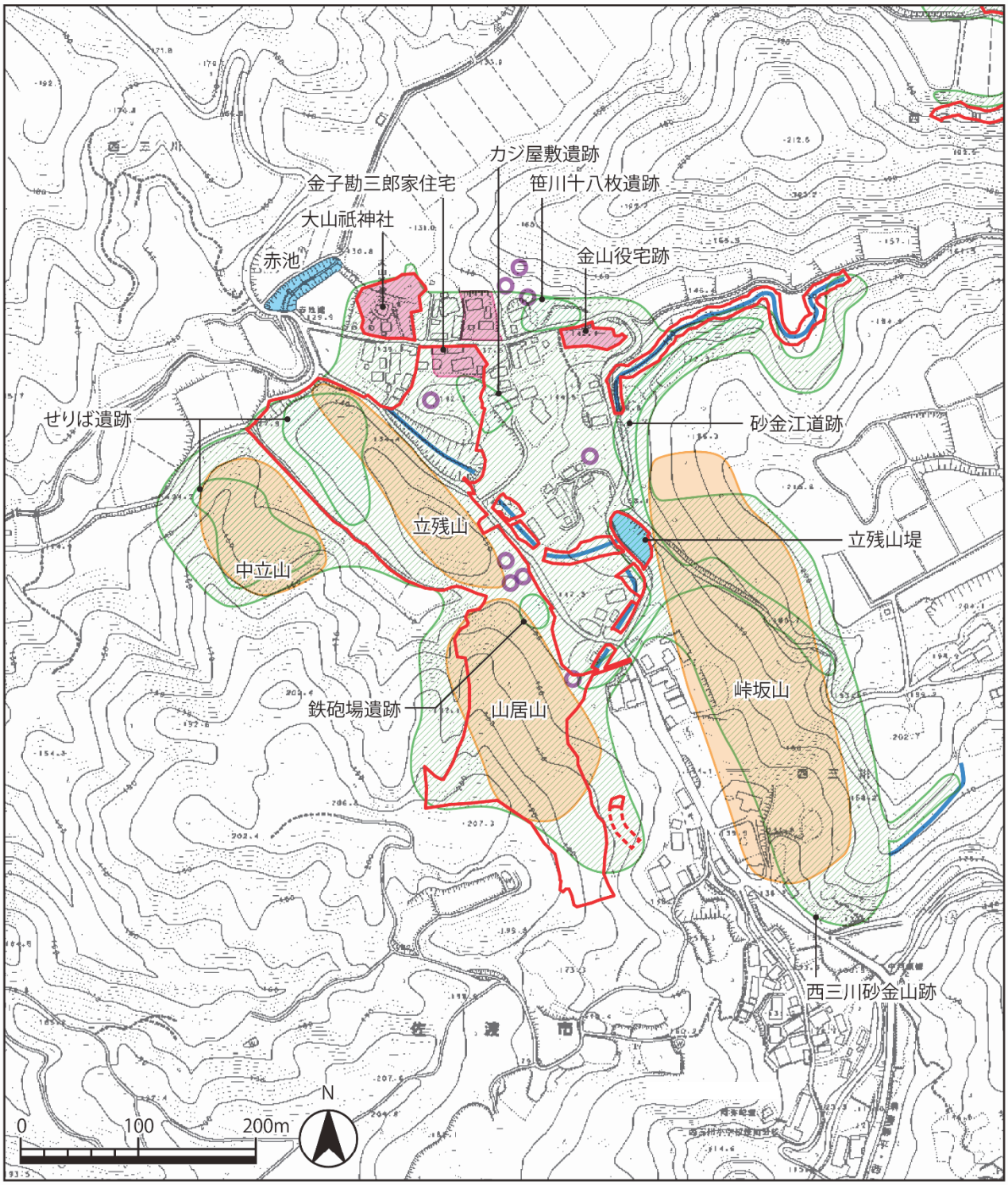


図 2-29：西三川砂金山跡（笹川集落・立残山）土地利用図



凡例

- 石組遺構
- 水路
- 堤
- 信仰施設
- 埋蔵文化財包含地
- 砂金採掘地
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

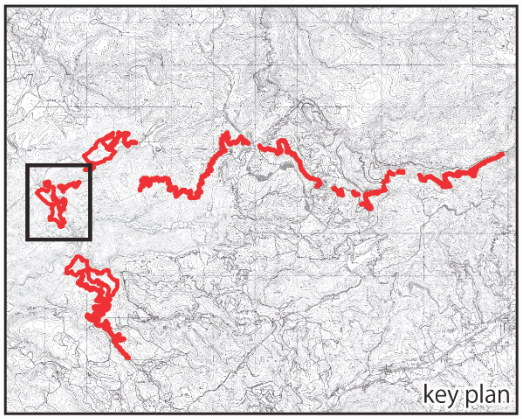
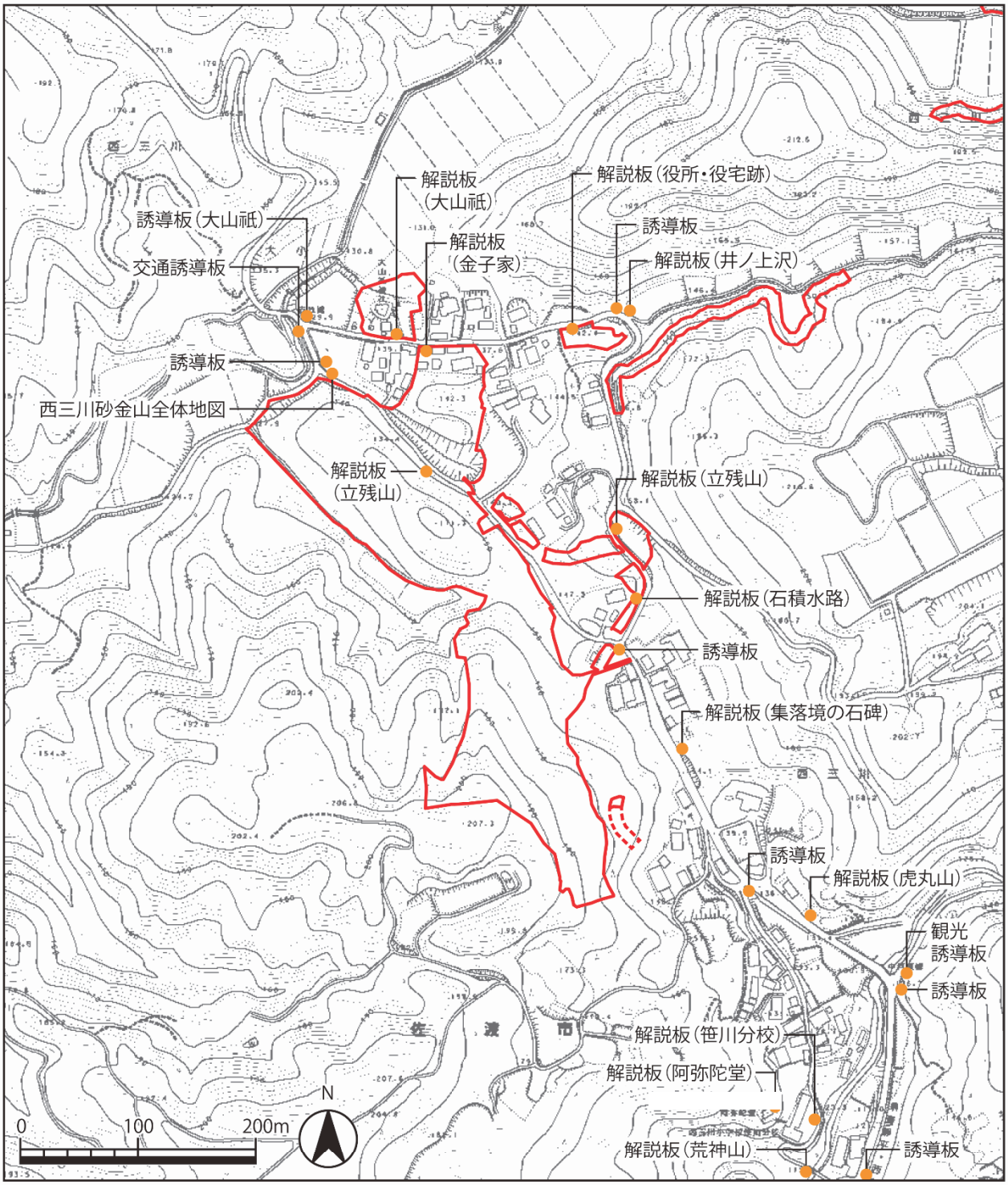


図 2-30：西三川砂金山跡（笹川集落・立残山）遺構分布図



凡例

- 説明板及び道標
- 史跡指定地(西三川砂金山跡)
- 追加指定予定地(西三川砂金山跡)

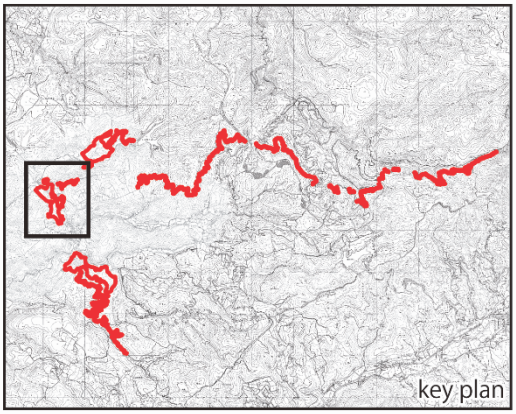


図 2-31：西三川砂金山跡（笹川集落・立残山）施設分布図